

みずのき美術館コレクション展 2023

前期

狩

2023・6・23/FRI → 9・17/SUN

浅木久輝
小笹逸男
岸ノ上卓二
高橋滋
二井貞信

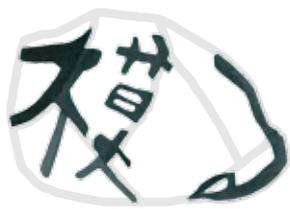
福村惣太夫
堀田哲明
森昭慈
山崎孝
山本悟
吉川敏明

二井貞信 Sadanobu FUTAI
《石》
1976年
オイルバステル、画用紙
38.1 x 54.2cm

みずのき美術館



MIZUNOKI MUSEUM of ART
KAMEOKA



2023・6・23/FRI → 9・17/SUN
 10:00 - 18:00
 開館 金・土・日・祝
 一般 400円 / 高大生 200円 / 中学生以下無料

模倣する、模写する、など、手本をもとに形を写し取ることや、ある形に似せて作ることを「**模る**」といいます。

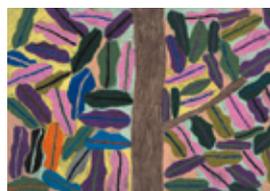
本展では、当館のコレクションであるみずのき絵画教室で生まれた絵画の中から、風景や物を見て描かれた作品、画集や写真集を模写した作品、さらには教室の隣で描いている人から影響を受けて作られた作品などをご紹介します。

「時間をかけて問いつめ推測を混ぜて得た結論は、すべてが具象であるということだった。」
 (西垣篤一、無心の画家たち-知的障害者寮の30年-、日本放送出版協会、1996)

一見すると抽象表現を思わせる作品も、大胆な色の分割や余白で構成されている作品も、描き手たちの日常の具体的な出来事から生み出されていることがわかってきました。様々なきっかけや描画によって模られたこれらの作品は、障害のある人に対する美術教育の観点からも、アール・ブリュットを研究する点においても、非常に貴重な資料であるといえます。



小笹 逸男 Itsuo OZASA
 《仏像》
 制作時期不明
 色鉛筆、特定が困難な絵の具系の素材、色紙(金円)
 27.3 x 24.2 cm



二井 貞信 Sadanobu FUTAI
 《木》
 1976年
 オイルパステル(銀あり)、画用紙
 38.0 x 54.0 cm



岸ノ上 卓二 Takuji KISHINOKAMI
 《山》
 1989年
 油彩、木炭、キャンバス
 90.9 x 116.7 cm



堀田 哲明 Tetsuaki HOTTA
 《家》
 制作時期不明
 オイルパステル、鉛筆、油性フェルトペン、画用紙
 38.0 x 54.1 cm



高橋 滋 Shigeru TAKAHASHI
 《鉄骨》
 制作時期不明
 オイルパステル(銀あり)、鉛筆、画用紙
 37.8 x 53.7 cm



吉川 敏明 Toshiaki YOSHIKAWA
 《猫》
 1981年
 木炭、木炭紙
 50.0 x 64.8 cm

みずのき絵画教室

障害者支援施設みずのきで、入所している人々を対象に1964年に誕生。講師の画家・西垣篤一(1912-2000年)は当初、余暇利用、情操教育等を主とするクラブ活動として考えていたが、入所者の多様な反応や変化の兆しを感じ、その後本格的な美術教育へと転換する。作品は国内の美術公募展で入選を果たした後、1990年代に日本のアール・ブリュットとして紹介され、国内外から注目を集めた。

みずのき美術館



MIZUNOKI MUSEUM of ART
 KAMEOKA

〒621-0861 京都府亀岡市北町18
 TEL 0771-20-1888
 FAX 0771-20-1889
 www.mizunoki-museum.org



JR嵯峨野山陰線 亀岡駅下車南口より徒歩約8分
 ※美術館に駐車場はございませんのでご注意ください。